

第2期

佐倉市まち・ひと・しごと創生
総合戦略

令和2年3月

佐倉市

目 次

1. 総合戦略の位置づけと目標年次	1
2. 総合戦略のねらい	1
(1) 佐倉市の人口推計	1
(2) 市民のライフステージに焦点を当てた取組	2
3. 総合戦略の政策体系	3
4. 基本目標と横断的視点	5
4-1 基本目標	5
4-2 各基本目標の基本的方向と数値目標	5
4-3 横断的視点	8
(1) 横断的視点1：多様な人材が活躍できる環境づくり	8
(2) 横断的視点2：未来技術の積極的な活用	8
(3) 横断的視点3：SDGsを原動力とした地方創生	8
5. 各基本目標の具体的施策	9
5-1 基本目標1：産業経済の活性化を図り、佐倉に安定した「しごと」をつくります	9
5-2 基本目標2：佐倉の魅力を発信し、「ひと」の流れを定住につなげます	11
5-3 基本目標3：市民の結婚・出産・子育ての希望を叶えます	13
5-4 基本目標4：安心して笑顔で暮らし続けられる「まち」をつくります	15
6. 総合戦略の効果検証及び改善（PDCAサイクル）	19

1. 総合戦略の位置づけと目標年次

(1)位置づけ

- ・ 第2期佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「総合戦略」といいます。)は、第5次佐倉市総合計画と整合を図りつつ、「佐倉市人口ビジョン(令和2年3月改訂)」(以下「人口ビジョン」といいます。)で定めた将来展望を踏まえ、今後5年間で実施・検討する戦略的な取組を定めるものです。

(2)目標年次

- ・ 令和6年度(2024年度)を目標年次とします。

2. 総合戦略のねらい

- ・ 総合戦略は、人口ビジョンに掲げた佐倉市の目標人口(令和22年(2040年)約15万4千人、令和42年(2060年)約12万8千人)を維持するとともに、活力ある地域社会を構築するための取組を示すものです。
- ・ 取組に当たっては、市民のライフステージに着目し(2頁)、また、多様な人材が活躍できる環境づくりや、Society5.0の実現に向けた未来技術の積極的な活用、SDGsを原動力とした地方創生の横断的な視点(8頁)を踏まえ、進めるものとします。

(1)佐倉市の人口推計

- ・ 現状で推移すると仮定した基準ケースでは、2060年の人口は97,526人となる見込みです。総合戦略に基づく人口減少を抑制する施策を実施することで、2060年の人口は127,982人となり、現状で推移した場合と比べ、約3万人の押し上げ効果が期待できます。

図1:佐倉市の人口推計

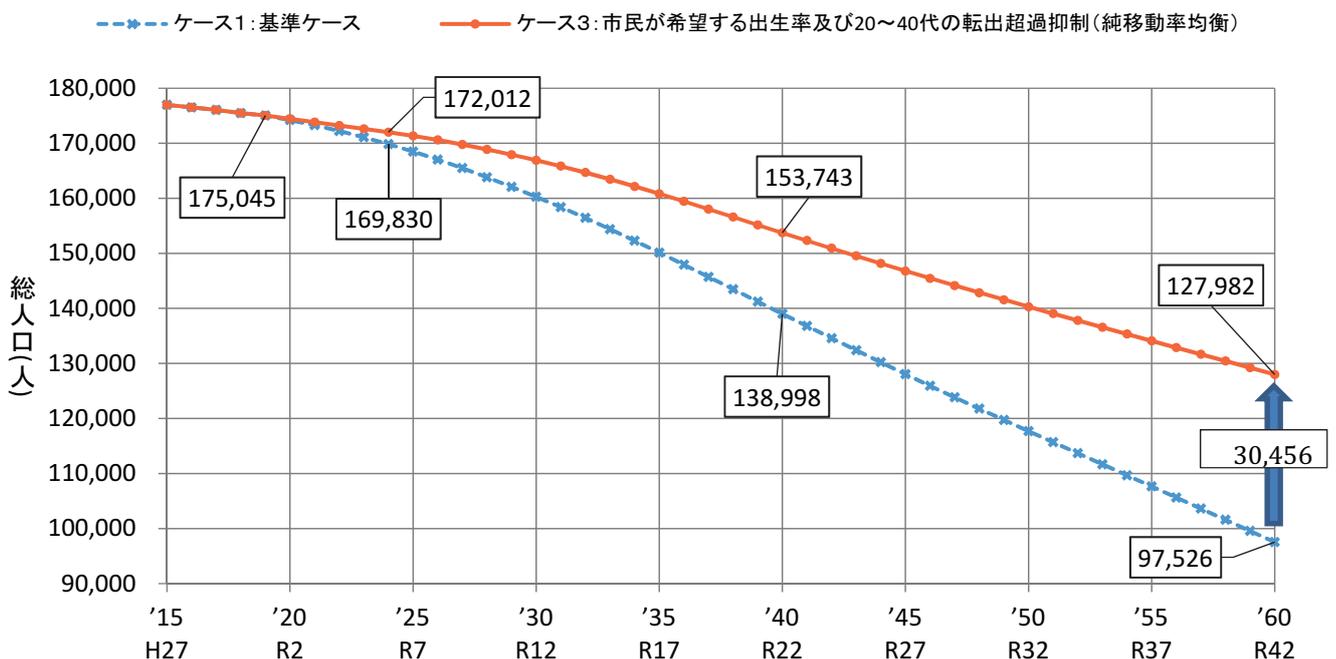
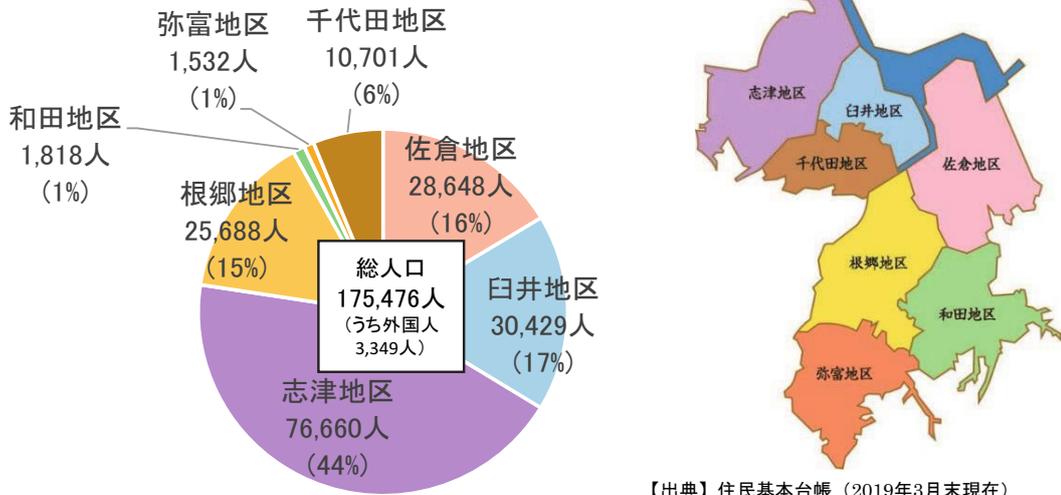


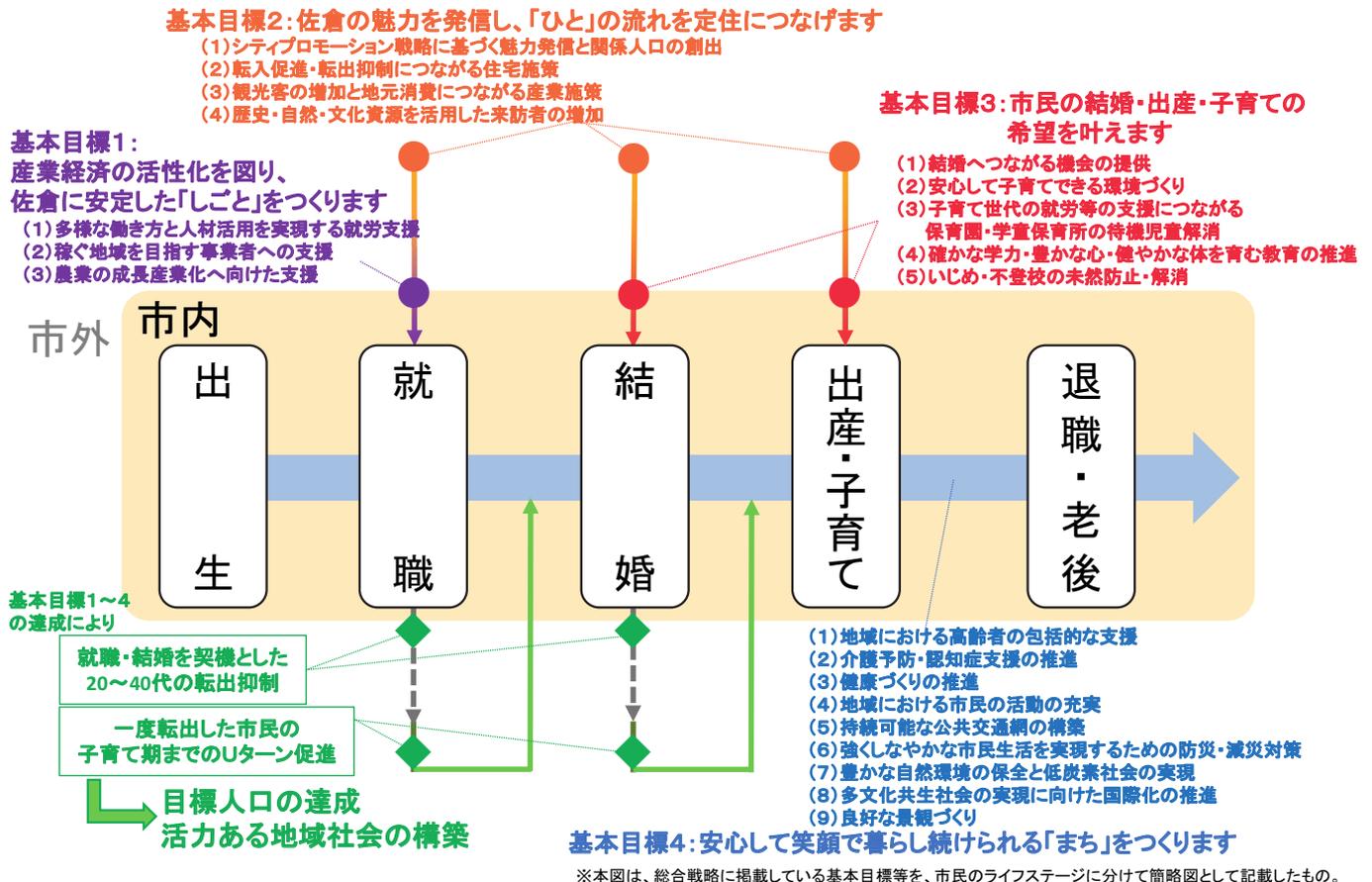
図2: 地区別人口



(2)市民のライフステージに焦点を当てた取組

- 市民のライフステージを、「出生」→「就職」→「結婚」→「出産・子育て」→「退職・老後」の5つと捉え、各ステージに焦点を当てた取組を進めるものとします。

図3: 市民のライフステージに対応した取組のイメージ



3. 総合戦略の政策体系

基本目標1：産業経済の活性化を図り、佐倉に安定した「しごと」をつくります [5、9、10頁]

重要業績評価目標(KPI)

- 市内法人数
- 認定農業者件数

(1) 多様な働き方と人材活用を実現する就労支援 [9頁]



(2) 稼ぐ地域を目指す事業者への支援 [9頁]



(3) 農業の成長産業化へ向けた支援 [10頁]



基本目標2：佐倉の魅力を発信し、「ひと」の流れを定住につなげます [6、11、12頁]

重要業績評価目標(KPI)

- 観光入込客数
(イベントを含む)
- 転入超過数(0～19歳)
- 転入超過数(20～39歳)
- 転入超過数(40～49歳)

(1) シティプロモーション戦略に基づく魅力発信と関係人口の創出 [11頁]



(2) 転入促進・転出抑制につながる住宅施策 [11頁]



(3) 観光客の増加と地元消費につながる産業施策 [12頁]



(4) 歴史・自然・文化資源を活用した来訪者の増加 [12頁]



基本目標3：市民の結婚・出産・子育ての希望を叶えます [6、13、14頁]

重要業績評価目標(KPI)

- 合計特殊出生率
- 子育て支援サービスの満足度

(1) 結婚へつながる機会の提供 [13頁]



(2) 安心して子育てできる環境づくり [13頁]



(3) 子育て世代の就労等の支援につながる
保育園・学童保育所の待機児童解消 [13頁]



(4) 確かな学力・豊かな心・健やかな体を育む教育の推進 [14頁]



(5) いじめ・不登校の未然防止・解消 [14頁]



基本目標4：安心して笑顔で暮らし続けられる「まち」をつくります [7、15～19頁]

重要業績評価目標(KPI)

- 健康寿命
(65歳における平均自立期間)
- 佐倉市を住みやすいと感じる市民の割合

(1) 地域における高齢者の包括的な支援 [15頁]



(2) 介護予防・認知症支援の推進 [15頁]



(3) 健康づくりの推進 [16頁]



(4) 地域における市民の活動の充実 [16頁]



(5) 持続可能な公共交通網の構築 [17頁]



(6) 強しなやかな市民生活を実現するための防災・減災対策 [17頁]



(7) 豊かな自然環境の保全と
低炭素社会の実現 [18頁]



(8) 多文化共生社会の実現に向けた国際化の推進 [18頁]



(9) 良好な景観づくり [19頁]



【主な取組】

【主なKPI】

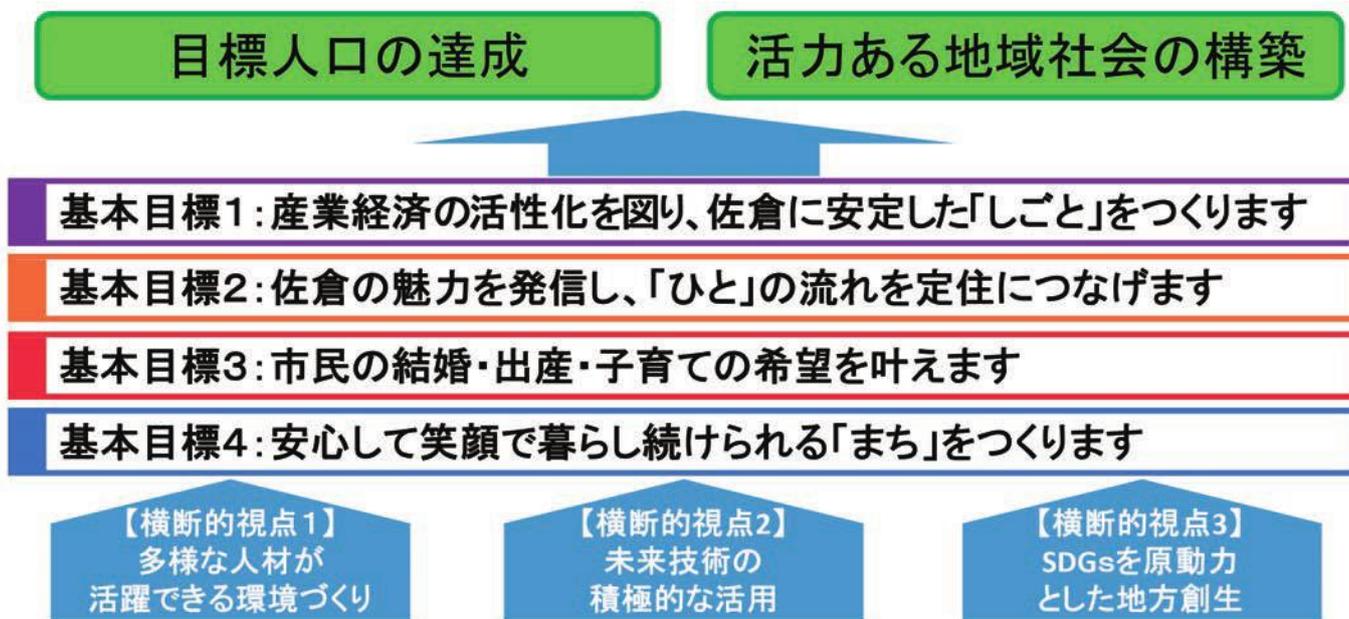
【横断的視点】

雇用拡大／就労／副業・兼業／ 多様な人材と市内企業とのマッチング	・地域職業相談室への市内相談者の就職率 ・企業誘致助成制度活用による市内雇用人数	SDGsを原動力とした地方創生 未来技術の積極的な活用 多様な人材が活躍できる環境づくり [8頁]
事業拡大・施設拡充／企業誘致／ 商店街振興／創業／事業承継	・地元商店会を利用する市民の割合・商店街空き店舗等出店 促進補助金支援件数・企業誘致助成制度新規利用企業数 ・起業塾受講者の創業者数・スマートオフィスプレイスの登録者総数	
農地の集積・集約化／ スマート農業／担い手育成／ 農産物の付加価値向上・販路開拓	・新規就農者数・商談会シートの作成件数	
市の魅力発掘・知名度向上／ 情報提供・発信／関係人口創出／ 企業版ふるさと納税	・佐倉市シティプロモーションのブランドメッセージの認知度 ・「サクライク」閲覧件数	
住宅補助／空き家利活用／ 多様な住宅流通	・住宅政策事業補助による定住者数	
観光・スポーツイベント／古民家活用／ 観光情報発信・多言語化	・観光入込客数(イベントを除く)・佐倉朝日健康マラソン大会 申込者数・観光協会の情報発信への「いいね」数	
歴史的建造物の保存活用／芸術文化事業 歴史体験プログラム／都市と農村の交流	・旧堀田邸・武家屋敷・佐倉順天堂記念館入館者数 ・美術館・音楽ホール利用者数・草ぶえの丘利用者数	
婚活イベント／結婚相談	・佐倉市婚活支援協議会新規登録者数・結婚相談受付件数	
子育て支援相談／ファミサポ／産婦等健診 子ども食堂等居場所づくり／ 教育・保育の質の向上／情報発信	・ファミサポ事業提供会員数・産婦健康診査受診率 ・保育施設待機児童数・学童保育所の受入可能児童数	
民間保育園等・学童保育所の整備／ 保育士確保	・学習状況調査の平均正答率・佐倉の歴史や自然に興味がある 児童・生徒の割合・学校給食の地元食材の使用割合	
外国語・ICT教育／保幼小連携／ キャリア教育／佐倉学／食育	・学校が楽しいと感じる児童・生徒の割合 ・児童・生徒の教育相談の回数	
いじめ防止／相談体制充実／ 適応指導教室	・地域包括支援センター事業評価における平均得点 ・介護職員初任者研修会参加者数・在宅・居住系サービス 利用者割合・特別養護老人ホームの定員数 ・高齢者クラブ会員数・シルバー人材センター会員数	
地域包括支援センター／生活支援体制充実 ／在宅高齢者支援／介護施設整備・介護 人材確保／医療と介護の連携	・週1回以上活動する通いの場の数・認知症サポーター数	
介護ボランティア支援／自立支援／認知症 サポーター養成／認知症初期集中支援チーム	・自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合 ・特定健康診査受診率・がん検診受診率 ・成人市民の週1回以上スポーツ実施率	
健康づくり／がん教育／特定健康診査／ スポーツ教室・ボランティア育成・団体支援	・地域福祉活動ボランティア人数・自治会・町内会加入率 ・まちづくり活動に参加したことがある市民の割合 ・公民館年1回以上利用している市民の割合	
地域福祉活動団体・民生委員の支援／ 地域共生社会／コミュニティ活性化／生涯学習	・公共交通が利用しやすいと思う市民の割合 ・コミュニティバス利用者数・佐倉市内運行路線バス利用者数	
交通手段確保・高齢者外出支援／ 公共交通補完移動手段(Maas等)	・災害に備えない市民の割合・災害情報メール登録者数 ・自主防災組織の団体数・雨水浸透ます等の補助件数	
防災情報発信の多様化・啓発／防災施設 整備／耐震化／自主防災組織支援	・生活排水処理率・印旛沼COD値・市事務事業排出CO2 ・住宅用省エネ設備等補助件数・ごみ総排出量	
谷津・里山保全／印旛沼水質浄化／ 環境活動・学習／省エネ・再生可能エネ	・外国人・外国文化に理解ある態度がとれる市民の割合	
広報紙多言語翻訳／外国人就労・生活・学 習支援／住民交流	・景観が良好と感じる市民の割合 ・景観形成団体への技術的支援回数	
景観形成団体への技術的支援／ 新町活性化複合施設を含めた景観の形成		

4. 基本目標と横断的視点

4-1 基本目標

- 総合戦略では、人口ビジョンに掲げた目標人口の達成、活力ある地域社会の構築を図るため、3つの横断的視点を踏まえ、4つの基本目標の実現を目指します。



4-2 各基本目標の基本的方向と数値目標

(1) 基本目標1: 産業経済の活性化を図り、佐倉に安定した「しごと」をつくります

① 基本的方向

- 定住人口の維持・増加のためには、産業経済の活性化を図るとともに、安定した就労の場を確保することが重要です。このため、多様な業種の新規企業誘致及び既存企業の再投資を推進するとともに、女性、高齢者、障害者及び外国人等の就労・定着促進、創業希望者への支援を実施します。また、農業の競争力を高めるため、農家の生産性向上を支援します。

② 数値目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値(2018年度)	目標値(2024年度)
市内法人数	3,377 法人	3,640 法人
認定農業者件数	112 件	142 件

(2)基本目標2:佐倉の魅力を発信し、「ひと」の流れを定住につなげます

① 基本的方向

- ・ 佐倉市への移住・定住を促進するためには、交流人口を増加し、それを定住人口の維持・増加につなげることが重要です。このため、城下町地区や印旛沼周辺等の地域資源を活用した観光施設の整備や、観光イベントの開催を行うとともに、こうした市の魅力を市内外に積極的に発信します。また、佐倉市に継続的に多様な形で関わる関係人口¹の創出につながる各種施策の検討を進めます。
- ・ 定住人口の維持・増加のためには、就職、結婚、出産・子育て期等における転入促進及び転出抑制を図ることが重要です。このため、市民のニーズに応じた各種住宅施策を実施するとともに、市内外に積極的に情報を発信します。

② 数値目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値(2018年度)	目標値(2024年度)
観光入込客数(イベントを含む)	211.2万人/年	224.2万人/年
転入超過数(0~19歳)	254人	369人
転入超過数(20~39歳)	▲411人	▲157人
転入超過数(40~49歳)	109人	157人

(3)基本目標3:市民の結婚・出産・子育ての希望を叶えます

① 基本的方向

- ・ 定住人口の維持・増加のためには、安心して子どもを産み育てることができる環境を整備することが重要です。このため、結婚・出産・子育てに関する市民の希望を叶えるための各種施策を実施します。また、小学校・中学校の学習内容の充実を図り、質の高い教育を提供します。

② 数値目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値(2018年度)	目標値(2024年度)
合計特殊出生率	1.21	1.46
子育て支援サービスについて、「満足」、「やや満足」と回答した市民の割合	46.9% (2019年度)	50.0%

¹ 関係人口:移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる者をいい、地域づくりの担い手不足という課題に対応するため、増やすことが必要とされている。総務省「これからの移住・交流施策のあり方に関する検討会報告書(平成30年1月)」で提唱。

(4)基本目標4:安心して笑顔で暮らし続けられる「まち」をつくります

① 基本的方向

- ・ 定住人口の維持・増加のためには、将来にわたって安心して暮らすことができるまちづくりの取組が重要です。このため、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる体制の整備や、市民の健康増進、市民活動の充実を図るための各種施策を実施します。また、持続可能な公共交通網を構築するとともに、防災・減災対策、自然環境の保全等の各種施策を実施します。

② 数値目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値(2018年度)	目標値(2024年度)
健康寿命 (65歳における平均自立期間)	男性 18.36年 女性 20.80年 (2015年)	延伸
佐倉市を住みやすいと感じる 市民の割合	74.9% (2019年度)	80.0%

4-3 横断的視点

- ・ 各基本目標の達成を図るためには、地方創生を担う人材の活躍や誰もが活躍し多様性に富む豊かな地域社会をつくることが重要です。また、Society 5.0²の実現に向けた未来技術の活用を図ることにより利便性の向上等が期待されます。さらに、SDGs³の理念に沿って取組を進めることは持続可能なまちづくりにつながります。
- ・ このため、以下の横断的視点を踏まえ、具体的施策を推進するものとします。

(1)横断的視点1:多様な人材が活躍できる環境づくり

- ・ 活力ある地域社会を構築するためには、地方創生の基盤を成す多様な人材に焦点を当て、その活躍を推進することが重要です。このため、市民、NPO法人等地域に関わる一人ひとりが地域の担い手として参画できる環境づくりとともに、女性、高齢者、障害者、外国人等誰もが居場所と役割を持ち活躍できる地域づくりを進めます。

(2)横断的視点2:未来技術の積極的な活用

- ・ 未来技術は、自動化による人手不足の解消や、地理的・時間的制約を克服することが可能であり、この活用により、地域課題の解決だけでなく、市民の利便性や満足度の向上が期待されています。このため、具体的施策の推進において未来技術の積極的な活用を図ります。

(3)横断的視点3:SDGsを原動力とした地方創生

- ・ SDGsは、全ての関係者の役割を重視し、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指して、経済・社会・環境をめぐる広範囲な課題に対し総合的に取り組むものです。このため、SDGsの目指す社会の実現に向けて、SDGsの理念に沿って具体的施策の推進を図ります。

(参考)Society 5.0 で実現する社会

【出典】内閣府HP



² Society5.0:狩猟(Society 1.0)、農耕(Society 2.0)、工業(Society 3.0)、情報(Society 4.0)に続く新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画で未来社会の姿として提唱。例えば、自動走行を含めた移動・物流サービス、オンライン医療、IoT(Internet of Things;モノがインターネットとつながる仕組み・技術)を活用した見守りサービス等、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会。

³ SDGs:「持続可能な開発のための2030アジェンダ」(2015年9月の国連サミットにて採択)に記載された2030年までの「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals)。なお、「3. 総合戦略の政策体系」(3、4頁)等にSDGsの目標(アイコン)を掲載。

5. 各基本目標の具体的施策

5-1 基本目標1:産業経済の活性化を図り、佐倉に安定した「しごと」をつくります

(1)多様な働き方と人材活用を実現する就労支援



- ・求職者に雇用・就労に関する情報提供や知識習得機会の提供等を行います。
- ・女性、高齢者、障害者、外国人等の就労促進及び定着支援を行います。
- ・市内及び近隣の高校と連携して、新卒者に対する市内企業の紹介を行います。

主な取組		
・市内企業の雇用拡大支援	・職業相談等による就労支援	
・民間企業の副業・兼業支援の検討	・多様な人材と市内企業とのマッチング支援の検討	
重要業績評価指標(KPI)	基準値(2018年度)	目標値(2024年度)
地域職業相談室への市内相談者の就職率	11.8%	15.6%
企業誘致助成制度活用による市内雇用人数	18人/年	100人(5年間の累計)

(2)稼ぐ地域を目指す事業者への支援



- ・市内企業の設備投資及び事業拡大を図るための支援を行います。
- ・企業誘致助成制度の活用等により多様な業種の企業誘致を推進するとともに、産業用地確保の検討を行います。
- ・商店街の活性化を図るため、商店街が実施する集客イベントや空き店舗を活用した出店促進を支援します。
- ・起業塾や低利融資等により、創業希望者を知識面、資金面から支援するとともに、中小企業や小規模事業主の円滑な事業承継を通じた新たな成長を支援します。
- ・佐倉市スマートオフィスプレイスの運営等を通じ、産業界や金融機関、教育機関等との連携による創業、技術開発、先端事業の創出を支援します。

主な取組		
・既存企業の事業拡大・施設拡充支援	・市内進出を行おうとする企業に対する支援	
・産業用地確保の検討	・オフィス系企業誘致に向けた支援の検討	
・商店街の取組支援・空き店舗対策		
・支援機関と連携した起業塾、創業セミナー等の実施		
・佐倉市中小企業資金融資制度による市内中小企業者への支援		
・佐倉市スマートオフィスプレイスの管理運営及び専門家による支援体制の充実		
・創業及び働き方改革関連イベントの開催		
・事業承継を促進するための取組の検討	・起業家教育の取組の検討	
重要業績評価指標(KPI)	基準値(2018年度)	目標値(2024年度)
地元商店街を利用する市民の割合	30.0%	40.0%
「商店街空き店舗等出店促進補助金」の支援件数	3件/年	35件(5年間の累計)
企業誘致助成制度新規利用企業数	3社/年	10社(5年間の累計)
起業塾(入門編)受講者の創業者数	7人/年	35人(5年間の累計)
佐倉市スマートオフィスプレイスの登録者総数	—	400人

(3) 農業の成長産業化に向けた支援



- ・主体的に生産・販売を行う経営マインドを持った農業の担い手を育成します。
- ・地域の理解を得つつ、新規就農者や法人といった新たな担い手確保に努めます。
- ・多様な主体と連携し、農産物の価値を高める新商品の開発や需要開拓の支援を行います。

主な取組

- ・農業の経営基盤強化のための農地の集積・集約化に取り組む担い手農業者への支援
- ・AI・ロボットを活用したスマート農業等生産体制強化に取り組む担い手農業者への支援
- ・就農希望者や新規就農者等への支援を通じた多様な担い手の育成
- ・農産物の付加価値向上に向けた新商品開発、加工の取組の支援
- ・商談会シート⁴作成や第三者認証取得の支援による市内外の販路開拓

重要業績評価指標(KPI)	基準値(2018年度)	目標値(2024年度)
新規就農者数	6人/年	10人(5年間の累計)
商談会シートの作成件数	—	40件(5年間の累計)

⁴ 商談会シート: 出展者の「伝えたい情報」とバイヤーの「知りたい情報」を1枚にまとめることで、効率的に商談を進めることを可能にした統一シート。

5-2 基本目標2:佐倉の魅力を発信し、「ひと」の流れを定住につなげます



(1) シティプロモーション戦略に基づく魅力発信と関係人口の創出

- ・市の魅力や活躍している人を発掘し、市内外のターゲットに向けた効果的かつ戦略的な情報発信を行います。
- ・ふるさと納税制度の有効活用を図ります。

主な取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・定住・交流人口の維持・増加を目的とした市の魅力発掘・知名度向上 ・広報紙・SNS⁵等多様な広報媒体を活用した情報提供・情報発信 ・ふるさと納税をきっかけとした関係人口の創出に向けた取組の検討 ・企業版ふるさと納税の活用に向けた検討 ・最先端技術を用いた観光名所や空き家情報等のPR手法の検討 		
重要業績評価指標(KPI)	基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
シティプロモーションのブランドメッセージの市内における認知度	—	50.0%
「サクライク」閲覧件数(佐倉市の魅力発信サイト)	25,518件/年	36,000件/年

(2) 転入促進・転出抑制につながる住宅施策



- ・多様な住環境に対するニーズを的確に踏まえた住宅取得等への支援を行います。
- ・空き家の利活用に対する支援を行います。

主な取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・住宅補助事業等による定住促進 ・多様な住宅の流通の促進 ・住宅補助事業や金融機関と連携した住宅取得支援による転入促進・転出抑制 ・空き家の利活用支援 ・空き家のルームシェア、シェアオフィス(職住育近接)等への活用支援の検討 		
重要業績評価指標(KPI)	基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
住宅政策補助による定住者数	538人(2019年度)	2,500人(5年間の累計)

⁵ SNS: Social Networking Service の略で、登録された利用者同士が交流できる Web サイトの会員制サービス。例えば、LINE、Facebook、Twitter等。



(3)観光客の増加と地元消費につながる産業施策

- ・城下町地区の景観整備や古民家活用を進め、滞在時間の増加や回遊性の向上を図ります。
- ・印旛沼周辺地域の新たな観光スタイルの提示や周辺施設の連携、駐車場の整備を進めます。
- ・既存イベントの内容を充実するとともに、新たなイベントの開催やアニメの聖地巡礼等市内での消費や回遊性につながる仕組みを構築します。
- ・ターゲットに合ったモデルコースや体験プログラム等の商品を造成します。
- ・多様なメディアを活用して観光情報の発信を行います。

主な取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・城下町地区や印旛沼周辺等の観光資源を活用したイベントの開催 ・古民家(旧平井家、旧今井家等)の有効活用の検討 ・ふるさと広場の拡張の検討 ・観光体験プログラム等の商品造成 ・スポーツイベントの開催 ・多様なメディア(SNS等)を活用した観光情報発信 ・成田空港・幕張メッセを活用した訪日外国人へのアプローチの検討 ・情報発信の多言語化の検討 		
重要業績評価指標(KPI)	基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
観光入込客数(イベントを除く)	147万人/年	156万人/年
佐倉朝日健康マラソン大会申込者数	13,033人/年	13,000人/年
観光協会の情報発信への「いいね」数	56,752いいね/年	58,206いいね/年



(4)歴史・自然・文化資源を活用した来訪者の増加

- ・市民の財産でもある貴重な文化財を適切に管理するとともに、観光資源として有効活用します。
- ・美術館・音楽ホールでの芸術文化事業を充実させ、交流人口の増加を図ります。
- ・市域を超えた都市部住民と農業を営む住民との地域間交流(農業体験等)を促進します。

主な取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・古民家(旧平井家・旧今井家等)等歴史的建造物の保存及び活用 ・旧堀田邸・武家屋敷・佐倉順天堂記念館等文化財施設を活用した観光イベントの開催 ・(仮称)佐倉図書館等新町活性化複合施設での歴史的資料の展示及び活用 ・歴史・芸術・文化資産の情報発信 ・美術館・音楽ホールでの芸術文化事業の実施 ・歴史文化体験プログラムの実施 ・草ぶえの丘を活用した都市と農村の交流促進 		
重要業績評価指標(KPI)	基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
旧堀田邸・武家屋敷・佐倉順天堂記念館の入館者数	39,582人/年	42,000人/年
美術館・音楽ホールの利用者数	170,742人/年	180,000人/年
草ぶえの丘の利用者数	115,053人/年	125,000人/年

(※)音楽ホールについては、2017年度、2018年度に改修工事を行ったため、2016年度実績を記載。

5-3 基本目標3:市民の結婚・出産・子育ての希望を叶えます



(1)結婚へつながる機会の提供

- ・結婚を希望する方が、パートナーに巡り会える機会を提供します。

主な取組		
・婚活イベントの開催 ・結婚相談の実施		
重要業績評価指標(KPI)	基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
佐倉市婚活支援協議会新規登録者数	82人	90人
結婚相談の相談受付件数	632人/年	700人/年

(2)安心して子育てできる環境づくり



- ・子育て家庭が、妊娠・出産・子育てを通じて切れ目のない支援を受けることができる体制を整備します。
- ・子育て家庭に対する経済的負担の軽減を行います。

主な取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代包括支援センターにおける子育て支援相談 ・育児に不安を抱える妊産婦への産後ケア ・妊産婦・乳幼児の健康診査、乳幼児の予防接種費用の助成 ・病児・病後児保育サービスの提供 ・ファミリーサポートセンター事業の運営 ・子ども医療費の助成、ひとり親家庭等への支援 ・子ども食堂等、地域の子どもの居場所づくりの推進 ・教育・保育従事者の質の向上 ・子育て支援サービスに関するわかりやすい情報提供 		
重要業績評価指標(KPI)	基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
ファミリーサポートセンター事業の提供会員数	157人	207人
産婦健康診査受診率	84.8%	90.0%

(3)子育て世代の就労等の支援につながる保育園・学童保育所の待機児童解消



- ・保育施設の整備や既存施設の活用による保育定員の増加により、待機児童の解消を図ります。
- ・入所児童が多い学童保育所の過密状態を解消するため、施設整備を進めます。

主な取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・民間保育園等への整備支援 ・保育士を確保するための支援 ・幼稚園の2歳児預かり事業の拡充(国の補助事業活用) ・学童保育所の整備 		
重要業績評価指標(KPI)	基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
保育施設待機児童数	29人 (2019年4月1日)	0人 (2024年4月1日)
学童保育所の受入可能児童数	1,705人	2,040人



(4) 確かな学力・豊かな心・健やかな体を育む教育の推進

- ・子どもの確かな学力を育成するため、きめ細かな指導を実施します。
また、教育課題について調査・研究し、指導に反映させていきます。
- ・子どもの豊かな心を育成するため、多様な体験活動を提供します。
また、佐倉の自然、歴史、文化、ゆかりの人物を題材とした佐倉学を推進します。
- ・自校式給食による安全・安心でおいしい給食を提供し、食育を推進します。

主な取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語教育の推進 ・ICT教育⁶の充実 ・キャリア教育・校外学習等の多様な体験学習の提供 ・地域の社会人・高齢者等を活用した授業の実施 ・小学校と幼稚園・保育園等との連携の推進 ・佐倉市学習状況調査の実施・分析 ・佐倉学の推進 ・食育の推進 		
重要業績評価指標(KPI)	基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
学習状況調査の平均正答率	基礎 81.3% 活用 70.3%	基礎 90.0% 活用 70.0%
佐倉の歴史や自然に興味がある児童・生徒の割合	61.1%	70.0%
学校給食の地元食材の使用割合	17.7%	21.0%



(5) いじめ・不登校の未然防止・解消

- ・不登校やいじめ等、子どもや保護者の学校に関わる悩みに適時適切に対応します。

主な取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止対策 ・悩みを抱える子どもたちの相談体制の充実 ・適応指導教室等による学校以外の居場所の提供 ・一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細かな支援体制の充実 		
重要業績評価指標(KPI)	基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
学校が楽しいと感じる児童・生徒の割合	91.4%	94.0%
児童・生徒の教育相談の回数	4,351件/年	4,500件/年

⁶ ICT教育：パソコンやタブレット端末、インターネット等のICT(Information and Communication Technology)の略で、情報通信技術のこと)を活用した教育手法のこと。

5-4 基本目標4:安心して笑顔で暮らし続けられる「まち」をつくります



(1)地域における高齢者の包括的な支援

- ・医療・介護・福祉・保健・生活支援サービスを担う事業者とのネットワークを強化し、医療や介護を必要とする状態となっても、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる体制を整備します。
- ・高齢者の健康維持・増進、就労機会の確保、社会参加の促進等を通じて、高齢者の生きがいづくりを支援します。

主な取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの運営 ・通いの場や見守り等による生活支援体制の充実 ・在宅で生活している高齢者及び家族への支援 ・介護施設等の整備、介護人材の確保 ・医療と介護の連携体制の構築 ・高齢者クラブ・シルバー人材センターへの活動支援 		
重要業績評価指標(KPI)	基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
地域包括支援センター事業評価における平均得点	84.7%	95.0%
介護職員初任者研修会参加者数(介護資格取得者数)	15人/年	30人/年
在宅・居住系サービス利用者割合(見える化システム)	76.9%	79.3%
特別養護老人ホームの定員数	790床	1,058床 (2020年度末)(※)
高齢者クラブ会員数	2,787人	3,000人
シルバー人材センター会員数	1,105人	1,345人

(※)高齢者福祉・介護計画改定時に見直し

(2)介護予防・認知症支援の推進



- ・介護予防に関する知識の普及と地域住民主体による介護予防活動の取組を支援します。
- ・認知症に関する正しい知識の啓発や早期発見・早期対応のための取組、ネットワークの強化を図ります。また、認知症の人と家族の視点を重視した認知症にやさしい地域づくりを促進します。

主な取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・栄養・運動・口腔ケア等の介護予防知識の普及啓発 ・介護予防ボランティアの養成・活動支援 ・高齢者の日常生活に関する自立支援 ・地域リハビリテーション活動支援事業の検討 ・認知症サポーターの養成 ・認知症初期集中支援チームによる支援 ・オレンジカフェの運営、認知症高齢者声かけ訓練 		
重要業績評価指標(KPI)	基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
週に1回以上活動する通いの場の数	81か所	170か所
認知症サポーター数	20,057人	28,500人

(3)健康づくりの推進



- ・健康づくり活動に参加しやすい環境を整え、地域での健康づくり活動を促進します。
- ・特定健康診査・特定保健指導の実施や、その重要性の啓発活動を通じ、市民の健康意識を高め、生活習慣病の予防と重症化予防を推進します。
- ・市民の健康・体力づくりにつながる生涯スポーツの普及を図ります。

主な取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりに向けた普及啓発 ・がん教育を含めた健康教育事業の実施 ・国民健康保険被保険者への特定健康診査・人間ドック費用の助成・保健指導 ・がん検診の実施 ・スポーツ教室の開催 ・スポーツボランティア・指導者の育成 ・各種スポーツ団体の支援 		
重要業績評価指標(KPI)	基準値(2018年度)	目標値(2024年度)
自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合	56.3% (2019年度)	66.3%
特定健康診査受診率	35.7%	44.0%
がん検診受診率	12.8%	50.0%
成人市民の週1回以上のスポーツ実施率	48.9% (2019年度)	60.0%

(4)地域における市民の活動の充実



- ・自治会等を中心とした各種団体や、社会福祉協議会・地域福祉団体等の自主的な活動を支援し、住民相互の支え合いによる地域づくりを推進します。
- ・地域づくりに対する市民意識の向上や、ボランティア・市民公益活動団体等が地域で行う活動への参加促進を図ります。
- ・公民館・図書館等による生涯学習活動を通じ、地域人材の育成・活用に取り組みます。

主な取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉団体等(社会福祉協議会・社会福祉法人・NPO法人、福祉団体・ボランティア等)への助成・支援 ・民生委員・児童委員への活動支援 ・地域共生社会に係る包括的支援体制の検討 ・自治会等が実施する住民自治・コミュニティ活性化活動への助成・支援 ・自治会・市民公益活動団体・教育機関・企業・ボランティア・行政等の地域における多様な主体の連携 ・公民館・図書館等における生涯学習機会の提供 		
重要業績評価指標(KPI)	基準値(2018年度)	目標値(2024年度)
地域福祉活動ボランティア人数	2,814人	3,000人
自治会・町内会への加入率	69.9%	70.0%
まちづくり活動に参加したことがある市民の割合	34.4% (2019年度)	40.0%
公民館を年に1回以上利用している市民の割合	25.7% (2019年度)	29.7%



(5)持続可能な公共交通網の構築

- ・農村集落と市街地を連絡する公共交通ネットワークの形成を図るため、コミュニティバスの運行・民間バス路線事業者への支援を行います。また、公共交通を補完する新たな移動手段の検討を進めます。
- ・沿線市町と連携して、ダイヤ改正や増便等利便性の向上について鉄道事業者に要望します。

主な取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・交通空白地域に対する交通手段の確保(コミュニティバスの運行・維持、民間バス路線事業者への支援)や高齢者等の外出支援の構築 ・京成本線・JR・民間バス路線等に関する要望 ・公共交通を補完する移動手段・技術・仕組(グリーンスローモビリティ⁷、超小型モビリティ⁸、自動運転、MaaS⁹等)の導入の研究と検討 		
重要業績評価指標(KPI)	基準値(2018年度)	目標値(2024年度)
公共交通が利用しやすいと思う市民の割合	28.5% (2019年度)	33.0%
コミュニティバスの利用者数	109,700人	149,900人
佐倉市内を運行している路線バスの利用者数	470万人	470万人



(6)強くなやかな市民生活を実現するための防災・減災対策

- ・災害時の被害軽減を図るため、災害に対する意識の向上を図ります。
- ・防災行政無線等の防災関連施設や河川・調整池等のハード整備を進めます。
- ・既存建築物の耐震化・危険ブロック塀等の撤去に係る支援を行います。

主な取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・防災・減災に関する情報発信の多様化・防災意識の啓発 ・防災備蓄倉庫の資機材・設備の管理・充実 ・防災に関する施設(無線・井戸等)の維持管理 ・市が管理者となる河川・調整池等の改修 ・既存建築物の耐震化や改修等の支援 ・危険ブロック塀等の撤去 ・自主防災組織の設立・活動支援 ・企業等との連携・協定による発災時の協力体制の強化 ・浸透性舗装や雨水浸透ます等の雨水の流出抑制対策の推進 		
重要業績評価指標(KPI)	基準値(2018年度)	目標値(2024年度)
災害に対して備えのない市民の割合	10.1% (2019年度)	8.0%
災害情報メール登録者数	16,926人	20,000人
自主防災組織の団体数	113団体	120団体
雨水浸透ます・貯水タンクの補助件数	12件/年	12件/年

⁷ グリーンスローモビリティ: 電動 20km/h未満で公道を走る事が可能な 4 人乗り以上のパブリックモビリティ。

⁸ 超小型モビリティ: 自動車よりコンパクトで小回りが利き、環境性能に優れ、地域の手軽な移動の足となる 1 人～2 人乗り程度の車両。

⁹ MaaS: Mobility as a Service の略で、スマホアプリで複数の公共交通や移動サービスを最適に組み合わせ、検索・予約・決済等を一括で行うサービス。

(7)豊かな自然環境の保全と低炭素社会の実現



- ・谷津を中心に、自然環境の保全・再整備を推進します。
- ・県や流域市町と連携し、印旛沼の水質改善に取り組みます。
- ・市民や事業者に対し、省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの活用に向けた啓発や支援を行い、低炭素型まちづくりを推進します。
- ・ごみの減量化・資源化に向けて、4R(リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル)を推進します。
- ・気候変動に適應するための施策を推進します。

主な取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・市民や市民団体、農業従事者等との協働による谷津や里山の保全 ・県や流域市町と連携した印旛沼の水質浄化に向けた取組の推進 ・生活排水や肥料等による印旛沼への流入負荷の削減のための指導・PRの推進 ・浸透性舗装や雨水浸透ます等の整備・普及による地下水涵養の推進 ・SDGsを踏まえた市民協働による環境活動・環境学習の推進 ・保全活動団体の支援のあり方・メニューの検討 ・家庭や事業所における省エネルギー設備や再生可能エネルギー設備の導入促進 ・公共施設への高効率空調や省エネルギー型の設備、再生可能エネルギー設備の設置 ・低炭素建築物認定制度や住宅性能表示制度等の啓発・活用 ・マイバッグの活用、過剰包装の削減、食品ロス削減等の啓発 		
重要業績評価指標(KPI)	基準値(2018年度)	目標値(2024年度)
生活排水処理率	93.1%	95.5%
印旛沼のCOD値	12mg/L	9 mg/L
二ホンアカガエルの卵塊確認地点数	11地点	11地点
市の事務事業から排出される温室効果ガス(CO ₂)排出量	13,175t- CO ₂	12,459t- CO ₂
住宅用省エネルギー設備等の補助件数	129件/年	158件/年
ごみ総排出量	51,398t/年	49,783t/年

(8)多文化共生社会の実現に向けた国際化の推進



- ・多様な価値観を受け容れることができる多文化共生社会の実現を目指します。
- ・外国人が安心して暮らし活躍できる地域づくりを推進します。

主な取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙の多言語翻訳等を通じた行政情報発信 ・オランダ等関係諸外国との交流促進 ・多言語による情報提供を通じた外国人就労・生活支援の充実の検討 ・生活相談及び日本語による学習支援等の拡充の検討 ・外国人材の活躍に向けた、住民交流等の取組の検討 		
重要業績評価指標(KPI)	基準値(2018年度)	目標値(2024年度)
外国人、外国文化に理解ある態度がとれる市民の割合	52.5% (2019年度)	60.0%

(9) 良好な景観づくり

・歴史・自然・文化から育まれた佐倉市の個性を活かした景観の形成及び保全を推進します。

主な取組		
<ul style="list-style-type: none"> ・景観に関する情報の周知・啓発 ・良好な景観づくりに取り組む市民・団体等への技術的支援 ・(仮称)佐倉図書館等新町活性化複合施設を含めた景観の形成 		
重要業績評価指標(KPI)	基準値(2018年度)	目標値(2024年度)
景観が良好と感じる市民の割合	58.5% (2019年度)	60.0%
景観形成団体への技術的支援回数	4回/年	15回 (5年間の累計)

6. 総合戦略の効果検証及び改善(PDCAサイクル)

○毎年度、3月末時点のKPI達成状況等を内容とする事業評価シートを作成し、本シート等に基づき、産官学金労言士等の有識者や市民公募委員で構成する「佐倉市行政評価懇話会」において、事業(Plan、Do)の効果を検証(Check)し、結果報告を取りまとめ、改善を図るPDCAサイクルを確立します。

第2期佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略

発行者 佐倉市

企画・編集 企画政策部企画政策課

住所 〒285-8501 千葉県佐倉市海隣寺町 97 番地

電話 043-484-1111（代表）

ホームページ <http://www.city.sakura.lg.jp/>

